

「歴史街道フォーラム」開催される

6月21日、「歴史街道フォーラム」（奈良新聞社主催、歴史街道推進協議会後援）が奈良商工会議所で開催され、奈良文化財研究所建造物研究室の清水真一室長が「平城京大極殿が蘇るまで」と題して講演、約80名が聴講した。

「ギリシャやローマでは、遺跡が石やレンガがころがった状態で保存されているが、日本の遺跡は木材で作られており、腐ってしまい原形が残っていない。平城京大極殿の復元についても資料が乏しく、建物の大きさ、立派さは、想像するしかない。復元には、大極殿遺構の発掘調査を手がかりにするとともに、奈良時代に建設された法隆寺や唐招提寺の寺院建築様式、平城京から一時遷都された恭仁宮の遺構などを参考にしたが、奈良時代の大極殿ではなく、現時点での研究の成果として見て欲しい」と、建物復元の難しさを訴えた。

また、「朱雀門や東院庭園などに加えて大極殿が復元（2010年予定）されると、平城宮の空間が目に見えてくることで、奈良時代への理解が深まることにつながる」と、復元の意義についても言及した。

（上田）



「平城京大極殿が蘇るまで」講師の清水室長